

令和3年度第4回青梅市移住・定住促進プラン策定懇談会会議録（概要）

- 1 日時 令和4年2月8日（火）に意見書を取りまとめ
- 2 場所 ※書面開催
- 3 出席懇談会員  
山本懇談会員（座長）、西浦懇談会員（副座長）、ノートン懇談会員、  
奥菌懇談会員、土方懇談会員、若林懇談会員、片山懇談会員、南谷懇談会員
- 4 欠席懇談会員  
なし
- 5 傍聴 ※書面開催につき傍聴なし
- 6 議事  
協議事項  
(1) パブリックコメントの意見に対する市の考え方について  
(2) パブリックコメントの意見を受けたプランの一部修正について  
(3) 振り返りを含めた御意見について

（配布資料）

資料1 青梅市移住・定住促進プラン

## 意見の概要および事務局からの御礼

### 1 パブリックコメントの意見に対する市の考え方について

全懇談会員が、資料1「青梅市移住・定住促進プラン」に記載されている内容に対して異存はないことが確認された。その上で、以下のような意見があった。

- ・パブリックコメントに対する返答もプランや現状などに基づいた的確な返答であり、必要であれば取り組みに反映されていると感じた。様々な立場の人の意見を聞き、検討をしている姿勢はとても好感を持った。
- ・東京方面の交通アクセスも大事だが、埼玉方面（飯能方面）へのアクセス強化も有意義と感じた。
- ・東京都というブランドを活かすのも青梅の特長の1つと思う。
- ・東京都のEV助成金が他県と比べていいようなので、他県在住の方にもアピールしやすいと感じた。
- ・バスの増設について、乗り合いタクシー等を特区対応することで支援するといったことも可能性としては考えられる。
- ・バスの自動運転にはまだ時間がかかると思うが、EVによる乗り合い事業ならば、それほど導入コスト・時間かからないと思う。
- ・資料1「青梅市移住・定住促進プラン」37頁の市内交通の利便性について、コミュニティバスによるバスの確保を進めていく必要がある。公共交通機関で多くの人が生活できる街づくりは将来、住み続けることができるということをこれから住む人々に感じさせることができると同時に定住者が転出することなく住み続けることで過疎化を抑制する方法ともなる。

### 2 パブリックコメントの意見を受けたプランの一部修正について

全懇談会員が、資料1「青梅市移住・定住促進プラン」に記載されている内容に対して異存はないことが確認された。その上で、以下のような意見があった。

- ・取り組みの軸を持ちながらも、様々な立場の人の意見を取り入れたことにより、より施策が効果的なもので、実際に移住を検討する方々にとっても魅力的な取り組みになっていると感じた。
- ・ターゲット層である20代・30代の子育て世代を狙った施策が弱いと感じていたので、支援策を増やすことに賛同。
- ・子供の医療費や教育費、給食等の環境が近隣自治体と比べて青梅市は弱いという意見を耳にする。他自治体より優れた施策をやるには税負担が大きいと思うので、難しいのだろうが、まずは同等になれるようにし、他の点で競合する自治体より優位になれるといいなと思う。

### 3 振り返りを含めた御意見について

- ◎懇談会を通じて改めて青梅市の長所を再認識した。今後、青梅市の魅力をさらに高めるための個別の委員会などが設置かつ推進されれば良いだろう。
- ◎「みんなシリーズ」の部分で、市民の方が、行政から指示を受けているような感じを受けない表現が良い。
- ◎パブリックコメントでも、懇談会でも、非常に様々な意見や難しい問題への指摘が出ていたが、真摯に向き合い、青梅市としての活動の方向性を持ちながら、施策について検討したことにより、移住者にとっても魅力的であり、検討したくなる非常に良い取り組みができたのではないかと印象を持っている。
- ◎様々な方が移住してくることは、既存の在住者にとっても魅力的な街に繋がり、転出を抑える効果にも繋がっていくのではないかと感じる。
- ◎懇談会の構成メンバーも性別や年齢など様々な背景を持つ委員会から構成されていたことにより、偏ることなく、幅広い意見を聞ける体制になっていたと感じた。
- ◎青梅市への移住・定住促進のために行政と青梅市民が一丸となって取り組める充実した内容の施策になったのではないと思う。
- ◎移住・定住者にとっての不安要素を解消し決断するポイントは、青梅市から歓迎されていると感じてもらえる環境が重要だと感じる。
- ◎「市民みんなシリーズ」を通し「おうめサイクル」の中に関わる人々がどんどん増えて大きなサイクルになるといい。
- ◎「市民みんながコンシェルジュ！」素敵なネーミングで取り組みも素晴らしいと思う。青梅市民が青梅市の良さを日常に感じながら生活していることも大事な要素、その意識が心からの「おもてなし」機運の向上にもつながると思う。市民の意識づくりも大事だ。
- ◎移住・定住者向けの手厚い支援に対し不公平さを持たれないよう（特急料金の補助等）、政策の目的を市民に理解してもらい、温かく迎える環境づくりが必要。
- ◎シテイプロモーションの中身があまりイメージできないが、やはり住んでみたい！と思ってもらえる内容で、ペルソナ像に近い移住者の体験談や暮らしなどを紹介するとわかりやすい気がする。
- ◎自然、新鮮な空気や森林のアロマ、美味しい水、焼き立てのパン屋、散歩道、自転車の練習ができる場所、魅力的な人、アート、オシャレなカフェ、映画館、犬の散歩ができる公園、お祭り、習い事、座禅、アウトドア体験、多摩川、家庭菜園、田園風景、無農薬野菜の直売所、青梅での楽しいライフスタイルがイメージしやすい、憧れるような写真や紹介などの情報発信をするとういなると思う。
- ◎実際に施策が実施されることを強く期待する。そして、今後も協働で市民目線も含めて取り組むことが大切。
- ◎青梅市移住・定住促進プランのキャッチコピー大変良いと思う。

- ◎ポータルサイトへのアクセスを誘導する方法の一つとして、SNS からの誘導がある。  
SNS サイトで移住・定住等の希望を発信している相手に対して、セールス活動の一つとして、青梅市から「いいね！」を発信すると、その受け手が青梅市に対して興味を持ちアクセスしてくれる。
- ◎今の時代ホームページが良いのが当たり前で、ホームページに直接アクセスしない傾向がある点も踏まえて欲しい。
- ◎資料1「青梅市移住・定住促進プラン」32 頁、33 頁の新規施策について良いと思う。支援はやはり魅力の一つだ。
- ◎移住ターゲット層に農業就労者を考えてみてはどうか。青梅市が支援して具体的に問題を解決していけば移住、定住者となっていく可能性は大きいと考える。そして、移住してきた時点で仕事がある。ということも大きいと思う。資料1「青梅市移住・定住促進プラン」32 頁の新規施策に農業就労者支援制度をたちあげたらどうか。
- ◎すべての子供たちが安心して遊べる場として児童館があるが、青梅市には児童館がないので設置をすすめる。ペルソナ1でも子供たちが安心して遊べることの重要性を言及している。
- ◎対面開催の懇談会では、時間の限りや他の懇親会員の意見も伺うべきと思い、長時間の発言は控えるような状況だったが、そういう点で、今回の書面での意見回収はとても有意義だった。
- ◎市外へ流出意向が強い20代・30代の若者・子育て世代に注力する方針は、独自性があり効果的な施策を検討する上で、選択と集中として必須の意思決定だと思う。
- ◎全体の職種分布を見た際に、農林業への従事者の比率は全体でみた時に僅かであり、施策の効果が小さいと思う。現在の就業者比率に基づいた、インパクトのある施策を打たないと効果が期待できない。
- ◎移住・定住を促進する上で、青梅で結婚相手を見つけ、青梅に共に暮らすという20代・30代が増える事も大事だと感じる。
- ◎青梅市に在住の未婚の方達を対象に、婚活を支援する事業を市が中心となって立ち上げていけば、結果、定住者増はもちろんのこと、他の市町村からマッチングにも魅力を感じて移住されるといった方も増えてきたら面白いなと思った。

#### 4 事務局より

第4回は書面開催となりましたが、懇談会員の皆様からは、上記のようにたくさんの意見をいただきました。お忙しいところご対応いただきありがとうございます。ありがとうございました。

さて、最後となりますので、事務局からも発言させていただければと存じます。

まず、「1 パブリックコメントの意見に対する市の考え方について」ですが、懇談会員の皆様全員に内容を御理解いただきました。

次に、「2 パブリックコメントの意見を受けたプランの一部修正について」です

が、懇談会員の皆様全員に内容を御理解いただきました。

次に、「3 振り返りを含めた御意見について」ですが、様々な叱咤激励をいただきました。その中でも、本市の特徴の一つである農業に関する意見や資料1「青梅市移住・定住促進プラン」に記載の「市民みんなシリーズ」に対する意見がありました。「市民みんなシリーズ」は、市民や事業者の方々の協力をいただけるよう理解をいただく努力を丁寧に行っていきたいと考えています。この「市民みんなシリーズ」が力を発揮するようになってきますと、本市の魅力がさらに強みを増すとともに、本市がそれを支援することで持続可能な形に繋がっていくような未来を展望できるものと捉えております。

## 5 これまでの御礼

懇談会会員の皆様におかれましては、昨年8月の第1回懇談会より長きに渡り、活発なご議論をいただきまして、誠にありがとうございました。

おかげさまで、今回配布させていただきましたように、令和4年度からの青梅市移住・定住促進プランが形作られました。今後、プランを実行していく段に移りますが、施策の実行にあたりましては、ご協力をお願いすることもあるかと存じます。

青梅市の移住・定住促進施策をはじめとした市政の推進に、引き続きご理解とご協力を賜れますと幸いです。

本来はならば、対面してご挨拶を申し上げるべきではありますが、新型コロナウイルス感染症が感染拡大局面にありますので、略儀ながら、まずは文書にて御礼を申し上げます。